

# 香川県綾歌郡国分寺町

## 野間方言の比喩語について

江端義夫

### はじめに

- 1 調査対象地：国分寺町は、香川県の北部中央に位置し、東の坂出市、西の高松市へそれぞれ約20kmという交通の要所にある。野間集落は、国分寺町の中央部の国道北に広がる田園地帯である。町の戸数は、5318戸、人口は、18460人(平成3年4月1日現在)である。人口は、漸増の傾向にある。
- 2 調査年月日時：1993年1月22日午後2時50分～4時45分
- 3 方言話者：山田テルミ 大正9年12月5日生(72歳)、お嫁さんの山田一美さんが同席。
- 4 調査者・調査場所：江端義夫、話者宅の前庭。
- 5 調査方法・調査時の様子：調査票に基づいて尋ねる方法。必要に応じて、同席者に語の用法について発言を求めることがあった。うちとけた雰囲気。
- 6 表記法：比喩語に関連する文例は○印で示した。< >印は筆者の説明、\*印は関連語である。  
語形は、①②の番号を付けて回答順に掲げた。品詞・使用者層・品位は原則として省略した。新古・盛稀・比喩の種類はできるかぎり掲げるようにした。

### I 《自然現象》

- 1 日照り雨 ①ネズミノ ヨメイリ (鼠の嫁入り) 盛、古。<引喩か>  
②テルテル アメ (照る照る雨) 盛、古。 ③テンキ アメ (天気雨) 盛、古。 ④シトシトアメノ ソデ ヌラス (しとしとと降る雨が袖を濡らす) 稀、古。<日照り雨の慣用的な言い方。><引喩か>
- 2 入道雲 ニュードーグモ (入道雲) 盛、古。 ○ニュードーグモガ テタケニ 万イニ テル。(入道雲が出たから、すっかり照る。) <慣用表現><隠喩か>
- 3 旋風 タツマギ (竜巻) 盛、古。○ツムジガゼノ ワチジャ ワチ。(竜巻きは旋風の内の一つだよ。) <隠喩か>
- 4 霜柱 シモバシラ (霜柱) 盛、古。<隠喩か>
- 5 つらら ツララ (つらら) 盛、古。
- 6 北斗七星 ホク下ヒチセー (北斗七星) 盛、古。
- 7 昴 無回答 ○ホシノ ゴトン ナツラ シラン ガレー。(星のことになったら知らないねえ。)
- 8 流れ星 ナガレボシ (流れ星) 盛、古。<活喩か>

### II 《動物》

- 9 かわはぎ ハギ (刺ぎ) 盛、古。<提喩か>
- 10 ひらめ ヒラメ (平目) 盛、古。
- 11 ひきがえる オンビキ (おん墓) 盛、古。○ヨハン ヨーケ タベルト オチカガ

オーギーンダト オンビキノ ハラミタイナ ユテ。(ご飯をたくさん食べると腹がいっぱいだと、おんびきの腹みだいだと言って。) <提喩か>

- 12 青大将 ①アオダイショー(青大将) 盛、古。<換喩か> ②ナンシャ(なんしゃ。文字不詳) 稀、古。<東条操編『分類方言辞典 補遺』に、「なむしゃ 青大将 高知県高岡郡」とある。>
- 13 とかげ トカゲ(とかげ) 盛、古。
- 14 かまきり カマギリ(鎌切り) 盛、古。<隠喩か>
- 15 みずすまし ミズスマシ(水澄まし) 盛、古。<隠喩か>
- 16 きつつき キツツキ(啄木) 稀、古。
- 17 せきれい 無回答
- 18 ふくろう フクロウ(梟) 盛、古

### III 《植物》

- 19 馬鈴薯 ①ジャガイモ(じゃがいも) 盛、古。<ジャガタラから入来した芋の意。> <換喩か> ②バレージョ(馬鈴薯) 盛、古。 ③ニ下イモ(二度芋) 盛、古。○ニ下 下レルカラ ニ下イモ ユテ。(年に二度収穫できるから二度芋と言って。)
- 20 とうもろこし ①コーン(corn 英) 稀、新。<コーン、ポップコーンは日常語に入ってきている。> ②キビ(黍) 盛、古。<提喩か> ③トモロコシ(玉蜀黍) 盛、新。<換喩か>
- 21 いんげん豆 ①インゲン(隠元) 盛、古。<換喩か> ②サソドマメ(三度豆) 稀、古。<年に三度も収穫できる豆だからだと聞く。>
- 22 そら豆 ソラマメ(空豆) 盛、古。  
\*オタフクマメ(お多福豆) <空豆の中で特に大きなものを言うのだそうである。>  
\*ワイルマメ(蛙豆) <空豆の中で莢も実も蛙の色に似て青い物だという。>  
<上記2例ともに隠喩か>  
\*ショーチゴン(少納言) <空豆の中で、少し小粒なものを指すという。>  
<換喩か>
- 23 木くらげ キクラゲ(木海月) 稀、新。<話者は「生えているところを見たことがない。こしこししておいしい。買って食べる。」と説明する。> <隠喩か>
- 24 げんのしょうこ ゲンジョウコ(げんのしょうこ、現の証拠) 盛、古。<話者は「おなかの薬」だという。>
- 25 どくだみ ①ドクダミ(どくだみ、薬) 盛、古。○タイガイワ ドクダミ ヱーケド 子。(たいがいはどくだみと言うけれどね。) ②ジューヤク(じゅうやく、十薬) 稀、古。○ドクダミオ ワカカシテ 子。トッテ アロテ カワカシテ ツマリ センジテ ノム。ソレオ ジューヤク ユーテ イーマズワ。(どくだみを乾かしてね。取って洗って乾かして飲む。それを十薬って言いますよ。) <①②ともに張喩か>
- 26 いたどり ①イタドリ(虎杖) 盛、古。○チヨット スツバエイ アジガ シテ 子。(ちょっと酸い味がしてね。) ②スツボン(すっぽん) 稀、古。<手で虎杖を折り取る時に発する音に似せたことば作りと見られる。> <声喩か>
- 27 からすうり 無回答

- 28 すみれ スミレ (菫) 盛、古。  
 29 春蘭 ① シュラン (春蘭) 盛、古。 ② ジジババ (爺婆) 盛、古。 <雌雄同一花に由来する命名か。 > <活喩 >  
 30 母子草 無回答  
 31 ねむの木 ネムノキ (眠の木) 盛、古。 ○ ユーガタン ナッター ハー タタム 子。(夕方になったら葉をたたむね。) <植物の現象を”眠る”と見立てている。 > <活喩か >

#### IV 《性向》

- 32 熱しやすく冷めやすい人 ミツカボーズ (三日坊主) 盛、古。 <隠喩か >  
 33 あわてん坊 アワテコマイ (あわてこまい) 稀、古。 <「あわてん坊」と「てんてこ舞い」の合成語か。 >  
 34 動作の鈍い人 ノロマ (のろま) 盛、古。  
 \* ヨモヨモスル (のろのろする) 稀、古。  
 \* 下ンクサイ (鈍くさい、のろい) 稀、古。 ○ 下ンクサイケン ヒマガ カカル。(動作が鈍いから、ひまがかかる。)  
 35 嘘つき ① センミツ (せんみつ、千三つ) 稀、古。 <真実の話が千に三つも無い程の人の意だという。 > <張喩か > ② マンミツ (まんみつ、万三つ) 稀、古。 <張喩か >  
 36 ほらふき ① オーフロシキ (大風呂敷) 盛、古。 <話者は、「よく使う土地言葉だ」と言う。 > ② ホラフキ (法螺吹き) 稀、古。 <共通語と同じく、貝を吹くことで自慢を表す。 > <隠喩か >  
 37 おしゃべり ベンシ (弁士) 稀、古。 <換喩か >  
 \* ハナシノ タネガ オーイ (話の種が多い) 盛、稀。  
 \* ホーソーキョク (放送局) 稀、新。  
 \* クチガ ジョーズナ (口が上手だ) 盛、古。  
 \* クチガ タツシャナ (口が達者だ) 稀、古。  
 \* ベンガ タツ (弁が立つ) 稀、古。  
 38 冗談言い ① コッケーナ シト (滑稽な人) 盛、古。 ② ヒョーキモン (剽軽者) 稀、古。  
 39 口先だけの人 ① ヘン下ノ オカイサン (遍路のお粥さん) 稀、古。 ○ ヘン下ノ オカイサンジャ。(乞食のお粥だ。湯ばかりで具が少ないから。) <諷喩か >  
 ② カミー サンノ ショーガツ (髪結いさんの正月) 稀、古。 ○ カミオ ユー バッカリトカ コトバデ ユー バッカリジャ ホンマガ ナイ ユー コト。(髪を結うばかりとか、言葉で言うばかりでは、真実が無いということ。) <諷喩か >  
 40 とんちんかんなことを言う人 無回答  
 41 のらりくらり煮えきらない人 無回答  
 \* クチガ アカン (埒があかない) 稀、古。 <性向、その人ではないが、状態を表した語。 >  
 42 怒りっぽい人 キブ ミジカイ シト (気の短い人) 盛、新。  
 \* キミジカ (気短か) 稀、古。  
 \* キママチ (気儘だ) 稀、古。

- 43 気むらな人 ①オテンキヤ (お天気屋) 盛、古。 ②オテンキモン (お天気者) 稀、古。○オテンキト ツイデ コロコロ カワル。(お天気と相応して、次々と気が変わる。) <①②ともに隠喩か>  
\*ギムラ (気斑) 稀、古。
- 44 泣き虫 于ギジヨゴ (泣き漏斗) 盛、古。 <隠喩か>  
\*ナキヨワムシ (泣き弱虫) <話者の説明では、「ペソをかいて、よく泣く子のことを言う」とのこと。>
- 45 おてんば娘 ①オテンバ (お転婆) 盛、古。 ②オトコマザリ (男勝り) 稀、古。 ③オチャンピン (おちゃんびん) 稀、古。 <茶目っ気の「チャ」からの語呂合わせか。> <詞喩か>
- 46 腕白坊主 ①ワンバクボーズ (腕白坊主) 稀、古。 <隠喩か> ②ワルボーズ (悪坊主) 稀、古。
- 47 出しゃばり デシャバリ (出しゃばり) 稀、古。
- 48 どこへでも顔を出す人 無回答
- 49 家にももって外出しない人 ①ヒッコミヤ (引っ込み屋) 稀、古。  
②デブショー (出不精) 稀、古。
- 50 小心者 オトツチャマ (おとつちやま) 稀、古。 <単純に「オトツチャマ」が「お父様」でないことは、意味が符合しないことで分かる。強いお父様を、正反対の小心者に当てたと見るのは、あまりに不可解。土地では末っ子を「オトゴ」と言うから、小心者を、「見劣りする御方」の意味で、「オトツチャマ」としたか。>
- 51 内弁慶 ①ウチベンケー (内弁慶) 盛、古。 <換喩> ②カクヤベンケー (楽屋弁慶) 稀、古。 <舞台裏である楽屋を造語基にしたのは、いかにも庶民風情が出ていておもしろい。> <換喩か>
- 52 人づきあいをしない人、社交性のない人 ヘンゴツ (偏屈) 稀、古。
- 53 妻に対して頭の上がない男 無回答。  
\*ザブトン 盛、古。○ザブトンデ シワレトル。(座布団で敷かれている。) <換喩か>  
\*カカーデンカ (母殿下) 盛、古。 <換喩か>
- 54 けち ①ケチンボ一 (けちん坊) 盛、古。 ②ニギリ (握り) 盛、古。 <主にお金を手で握りしめて手放さない様子を言うものであろう。> <提喩か>
- 55 欲張り ①ヨクバリ (欲張り) 盛、古。 ②ヨクツタレ (欲っ垂れ) 盛、古。

## V 《食生活》

- 56 大食漢 ①オージョク (大食) 盛、古。  
②オージョク下リ (大食取り) 稀、古。 <「大」は訓読み、「食」は音読み、「取り」は訓読み。> ③ソコナジ (底無し) 盛、新。 <胃袋の底がない程に大量に食べるという意味であろう。> <張喩か>
- 57 ほたもち ①ボタモチ (牡丹餅) 盛、古。 ②オハギ (お萩) 盛、新。 <換喩か>
- 58 砂糖味が薄い ①サ下ヤフ キンジョ 下オッタ (砂糖屋の近所を通った。味が薄い、甘くない) 稀、古。 ②サ下ヤフ マエ イッショケンメデ ハシッテ 下オッタ (砂糖屋の前を一生懸命で走って通った) 稀、古。 <①も②も fairy tailふうのおもしろい表現でまとめられている。> <諷喩か>

- 59 塩味が薄い ミズワサイ (水臭い) 稀、古。<塩味が薄いくらいで、水の臭いが臭いというのは、いかにもこだわった言い方と言えよう。><堤喩か>
- 60 大酒飲み ①オーザケノミ (大酒飲み) 盛、古。 ②シュゴ (酒豪) 稀、古。 ③ワラバミ (蟒蛇) 稀、古。<隠喩か> ④オハラシヨースケ (小原少助) 稀、古。<④は、酒で身代を潰したという言い伝えを引いたものであろう。><引喩か>
- 61 酒に酔ってくだをまく ①グデル (ぐでる、ぐでんぐでんに酔っぱらう) 稀、古。<『全国方言辞典』には、山口県下にも「酔人がくりごとをいう」のをグデルと報じている。グデルは「ぐでんぐでんになる」からのものかと考えたいが、「愚図る」との縁も断ち切れないので、判じきれない。> ②ヨモタ ギル (世迷言を言う、よもたきる) 稀、古。○グデングデンニ ヨーデ ヨモタ キルンヤ。(ぐでんぐでんに酔ってしつこい言動を吐くんだ。)<ヨモタは現行の方言辞典中に見えない語である。「世迷言(よまいごと)」が音転して「ヨーマー」となり、広く西日本に分布するが、その汎用によって、当地の「ヨモタ」ができたと考えられなくもない。「～キル」は、「たんかをキル」の「キル」が接合したものか。><詞喩か>
- 62 酒に酔って顔が赤くなる、そのさま ヘンズル (赤面する) 稀、古。<紅面(べにづら)が、動詞化語尾の「～ル」を接合させて、「へんずる」を生んだと考察したが、未だ古辞書では確認していない。>

## VI 《動作・様態》

- 63 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま カオカラ ヒヲ デル (顔から火が出る) 稀、古。<滅入ってしまいがちな恥辱の時に、ほてる気分を大げさによく表現されている。><張喩か>
- 64 どしゃぶりの雨 バテツデ ウツスヨーナ アヌ (バケツで移すような大雨) 盛、古。<土砂降りとせず、生活身のバケツで水を移しかえる農作業になぞらえたのが心を打つ。><直喩><張喩か>
- 65 ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、そのさま ネコフ コシ ボツタヨーン ナル (猫のこしぼったようになる、ずぶ濡れになる) 稀、古。<「コシボル」の意味が不詳。><直喩><隠喩か>
- 66 服装がだらしない様 ①ゾーローナ (無造作だ、だらしない) 稀、古。 ②ゾーライナ (無造作だ、だらしない) 稀、古。<①②ともに近畿・四国・中国地方に分布する。語源は不詳。> ③ショテンガ ワルイ (所体が悪い) 稀、古。○アフシト ショテン ワルイ ヒトヤ チー。(あの人はなりふりの悪いだねえ。)<「ショテン」は、古語の「しよてい」(所体、みなり)に由来するとみられる。>
- 67 髭が伸び放題な様 ブシヨ ヒゲ (不精髭) 盛、古。○ブシヨ ヒゲ ジャ ワデー。(不精髭だよさ。)
- 68 厚化粧をしている人 ①オバケンミタイニ シトル (お化けみたいにしている) 稀、古。<直喩><張喩か> ②シラカベ ホド オケシヨ シトル (白壁ぐらいにお化粧をしている) 稀、古。<隠喩か> ③シラカベ (白壁) 稀、古。<諷喩か>

- 69 背丈の高い人 フツボ (のっぼ) 盛、古。  
\*デンシンバシラミタイニ タカイ (電信柱みたいに背が高い) 稀、新。  
<直喩>
- 70 出びたい ①デビタイ (出額) 稀、古。 ②デボ (出額) 稀、古。  
③オデコ (出額) 盛、古。○オデコガ デトル。(おでこが出ている。)  
<「オデコガ デトル」は、ちょうど「湯をわかず」と同じように重複だが、め  
ずらしくはない。>
- 71 汗が額から流れ落ちる ヒタイカラ アマダレガ オチル (額から雨垂れが落ちる)  
盛、古。<隠喩か>
- 72 目を丸くする アケル (阿呆ける、びっくりする) 稀、古。○アケタ ガナー。  
(びっくりしたよ。)<香川県、兵庫県地方に分布する。古語の「阿呆」を語幹  
とする動詞と考えられる。「あほうげる」に類する誇張であろう。><張喩か>  
\*ハデガ マメデッポー クータ 下キノ ヨーナ カヲ (鳩が豆鉄砲を食った  
時のような顔) 稀、古。<直喩><諷喩か>
- 73 口をとがらす ①フクレズラスル (膨れ面する) 稀、古。<隠喩か>  
②ヒョットコノメンミタイナ ワオスル (火男の面みみたいな顔をする) 稀、古。  
<直喩><諷喩か>
- 74 焦げ臭いにおい ヒノボリクサイ (きなくさい、紙や綿布のこげるにおいがする)  
盛、古。<「ヒノボリ」は「キヌ(衣)」に由来するのであろう。><提喩か>  
\*ビニール アオイ (ビニールの焼ける臭いにおい) 稀、新。
- 75 遠廻り(をす) トーマカリシテイク (遠廻りしていく) 稀、古。
- 76 末っ子 ①オトンボ (おとんぼ) 盛、古。 ②オトゴ (おとご、末っ子) 盛、  
古。<兄に対して、年などの劣る子を末っ子と見なしたものだらう。>
- 77 一生懸命頑張る ①ワンバツター (頑張っている) 稀、新。<基本形は「ガンバ  
ル」であろうが、確かめをしていないので、得られたままを掲げた。>  
②キバツトル (気を張って働いている) 稀、新。  
\*ショーラシー (まじめによく働いている様子だ) 盛、古。○アフ シト  
ショーラシ チー。(あの人は働き者だねえ。)<四国を中心に、西日本に広  
く見られる。古語では「上品で、優雅だ」という意味だが、「けなげに、ひか  
えめで従順に働く様」をも言うようになっている。><提喩か>

#### まとめ

- 1 物と言葉とが対応する段階が比喩だということにすれば、言語記号は全て、比喩だということになる。
- 2 ユーモア感覚に立ち、「ソコナシ(大食漢)」「センミツ(嘘つき)」「ジューヤク(毒だみ)」「オーケル(阿呆ける、目を丸くする)」等のように誇大に表現するのは、方言の事大主義の特色と言える。

(えばた よしお 広島大学教育学部)